

## “今週の国際宇宙ステーション（ISS）”

☆最初のISS構成要素打上げから1663日経過しました

☆第7次長期滞在クルーのISS滞在は43日経過しました

### ☆ISS動向

ユーリ・マレンченコとエドワード・ルー両宇宙飛行士は、緊急医療手術の練習を行いました。これは全ての長期滞在クルーに義務づけられている訓練です。また、マレンченコ宇宙飛行士はロシアモジュールの換気システムの点検と清掃を行いました。

第7次長期滞在クルーは2名のため、船外活動を行う予定はありませんが、米国時間5月28日（水）には、2人のクルーだけで船外活動用宇宙服の着脱ができるかテストを行いました。

### ☆プログレス補給船（11P）打上げ

ISSへの物資補給を目的としたプログレス補給船がソユーズロケットにより、日本時間6月8日（日）午後7時34分、バイコヌール宇宙基地（カザフスタン共和国）から打ち上げされました。プログレス補給船はISSに水、食料や予備品など約2,404キログラムの補給物資を運びます。

ISSとのドッキングは、日本時間6月11日（水）午後8時17分頃の予定です。

詳細はこちらをご覧ください。

<http://jem.tksc.nasda.go.jp/iss/supply/11p/index.html>



点検を受けるプログレス補給船（カザフスタン共和国）  
©Energia



射点に運ばれるソユーズロケット（カザフスタン共和国）  
©Energia



ソユーズロケットの打上げ（カザフスタン共和国）  
©Energia



食事の準備をするマレンченコ宇宙飛行士



デスティニーでのルー宇宙飛行士



宇宙服の着脱テストを行う両宇宙飛行士

## “今週の「きぼう」”

### ☆「きぼう」船内実験室、ケネディ宇宙センターへ搬入

5月2日に横浜港を出発後、日本時間5月30日（金）にポートカナベラル港に到着した「きぼう」日本実験棟の船内実験室は、6月4日（水）、NASAケネディ宇宙センター（KSC）への搬入が終了しました。

また、船内実験室と同じ時期にイタリア宇宙機関（ASI）が製作した第2結合部（ノード2）もイタリアからKSCへ空輸されました。今後、ASIによる運搬後審査を経て欧州宇宙機関（ESA）に引き渡され、その後NASAに引き渡されます。

船内実験室は、ノード2を介してISS本体と結合されます。なお、ノード2には生命科学実験施設（セントリフュージ）や欧州実験モジュール（COF）なども取り付けられます。

NASAでは、NASDA、ESA、ASIの代表を招き、米国時間6月18日（水）に、船内実験室とノード2のKSC到着を祝う歓迎式典を開く予定です。

今後、船内実験室はおよそ1ヶ月半かけて試験機器とともにKSCの宇宙ステーション組立試験施設（SSPF）に設置され、8～9月に予定されているノード2との適合性確認試験（Multi-Element Integration Test-III: MEIT-III）に備えます。

船内実験室輸送に関してはこちらをご覧ください。

[http://jem.tksc.nasda.go.jp/iss/kibo/develop\\_status\\_36.html](http://jem.tksc.nasda.go.jp/iss/kibo/develop_status_36.html)



ポートカナベラル港で船内実験室を出迎える  
野口宇宙飛行士（5月30日）



外航船からトレーラに移される船内実験室（6月4日）



イタリアから空輸されたノード2（6月2日）



SSPFに設置されたノード2（6月3日）



トレーラでKSCに運ばれる船内実験室（6月4日）

2003年10月1日から宇宙開発事業団は独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）に移行します。



問い合わせ先：宇宙開発事業団 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ISS・きぼうホームページ <http://jem.tksc.nasda.go.jp/> Eメール kibokoho@nasda.go.jp

※「ISS・きぼうWi-Fiクリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本Wi-Fiクリーニュースから転載した旨を記述ください。